



## 茶 新茶の幕開けを彩る新茶行事と広がる菊川茶の魅力 の香り広がる 新茶シーズン到来！

みんなで  
「お茶のまち菊川」を  
盛り上げましょう！



1 新茶を一つひとつ丁寧に摘み取る 2 先人たちの功労に感謝し、今年の茶業の発展を祈る 3 茶の品質を真剣に吟味 4 威勢よく手を打ち、商談が成立 5 GI アワードの賞状を掲げる茶業協会職員

新茶シーズンを迎え、今年も市内ではお茶に関するさまざまな行事が行われました。

4月3日には、菊川茶手揉保存会の宮城孝雄さん宅のビニールハウスで育てられた茶園で、茶業関係者や菊川茶娘らが今年初めての新茶を手摘みしました。(写真1)

4月6日には、菊川公園で「栄西禅師並びに市内茶業先覚者供養祭」が開催され、茶業関係者らおよそ20人が、先人の功労に感謝するとともに、今年の茶業の盛況を祈願しました。(写真2)

4月22日には、JA遠州夢咲茶業振興センターで新茶初取引が開催されました。JA職員や茶商が五感を研ぎ澄まして新茶の品質を吟味し、生産者へそろばんで金額を掲示すると、威勢良く手を打つ音が会場に鳴り響き、商談が成立しました。(写真3 4)

昨年度、地理的表示(GI)保護制度の認知度向上の取り組みが評価され、日本地理的表示協議会の「GIアワード(登録生産者団体部門)」を受賞した『深蒸し菊川茶』。(写真5) これからも深蒸し菊川茶の魅力を広く発信し、その価値を未来へとつないでいきます！

## 水 西方ふるさとづくり水源祭 の恵みに感謝

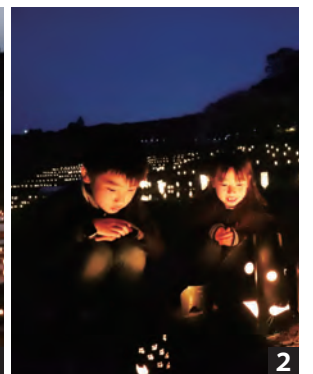
3月29日、西方地内の三ツ池公園で「第40回西方ふるさとづくり水源祭」が開催されました。農業用貯水池の造成に尽力した先人に感謝し、水害防止や五穀豊穡を願う恒例行事。会場にはおよそ200人の地域住民が集まり、親睦を深めました。午前中に神事が執り行われ、午後には護摩を実施。炎の勢いが収まると、住職らが残り火をならして道をつくり、来場者が火渡りに挑戦。参加者は熱さを我慢しながら裸足で炎の間を歩き、今年一年の無病息災を祈りました。



1 先人への感謝の読経 2 炎の間の道を裸足で歩く火渡り

## 幻 せんがまちあぜ道棚田アート2026 想的な光と自然の共演

3月28日、上倉沢せんがまの棚田で「あぜ道アート2026」が開催されました。棚田のオーナーや協力企業、地域住民、一般客らおよそ300人が来場。ペットボトルを再利用して制作したおよそ1,000本の灯籠に火が灯ると、あぜ道や水が張られた田んぼに無数の光が映り込み、里山に幻想的な光景が広がりました。来場者は、揺らめく灯りを眺めたり、写真を撮ったりしながら、棚田に広がる一夜限りの神秘的に満ちた光景を堪能しました。



1 無数の光が棚田を照らし出す 2 幻想的な灯りにうっとり